

北海通
札幌

建辰神大子

八田三郎
叔必親
廣



阿年定

月十日

大坂市西區南堀江通壹丁目
勝本鼎一

おれにふりかへるは、
十月十日に出た。ふりかへる

は、おれにふりかへるは、
おれにふりかへるは、

おれにふりかへるは、
おれにふりかへるは、

先月三十日感冒の気味は、
おれにふりかへるは、

おれにふりかへるは、
おれにふりかへるは、

おれにふりかへるは、
おれにふりかへるは、

おれにふりかへるは、
おれにふりかへるは、

おれにふりかへるは、
おれにふりかへるは、

おれにふりかへるは、
おれにふりかへるは、

おれにふりかへるは、
おれにふりかへるは、

おれにふりかへるは、
おれにふりかへるは、

おれにふりかへるは、
おれにふりかへるは、

おれにふりかへるは、
おれにふりかへるは、

おれにふりかへるは、
おれにふりかへるは、

新義中を専ら常務と

辞退せば最も穩つたりと

評議一決 鼎新一評表を

携りて初め

とは且劇勢を捲くぬとは

東志を儲けり敵を欺

つとせは味方をも欺り

るべからん 皆初意を信

じ居るふえ果止の至

つせん 此日會經名物之

ハ生輝任が問題とあり

誤り取違はるる齟齬

監査役平修 経後 昭文

會役と代表 東院

新義中を専らと

常務の名義受け 甚倦

會後と何れ 東院

新氣静養中を欠却し

常務の名義受け甚倦

と申し置かれたし静養

欠却中為政の責任を以て

事務を操る故安心相

願うたし

この以上は任の生を

為政の社務を操る事は

衷心より願し自分の名義

を常務が好むに依り

自分の性情を以て

静養を為す故に断然

代表の取消をせし

之回為任置か之

此一返為好と認む

の断り等をして取消を

要求する決心を以て

今日迄感情を以て云

ふ事、初一居り先方が

今日迄感情心切いと云
ふ事、秘一處字先方が
感情的、来る場合は
心全くと決心有之、大に發
ふ事、小と可去る八日辭
任申出ひの望、一寸申定
以來末如一回の見舞も
来らば、主人は八日十日と
二回申らば、鼎新一僕が
誓つたと云、たると、よ、こ
海老の心中、穩かならむ
若ある、や、乙、何、今、後
ハ生、平、取、締、と、切、大、
攻、勢、と、取、了、決、心、代、表、取
消、の、登、記、申、請、白、陸、見
破、け、城、の、崎、と、暫、時、清、暮

二回車に乗りかへり
鼎へ備へ

悪かつたと言ひたるは
さういふ

波女の中
穩可からぬ

若あるは
今後

川生と平取端とあり大

攻勢と取了決心代表取

消の登記申請白陸見

破け城の味と暫時清暴

おぼろ半活節可歌心

節を以て便

比出の力中

十月十七日